

長畝ふるさと通信

【2010年10月号】

「朱鷺の棲むふるさと・長畝」より毎月みなさんにお便りを出すこととなりました。私たちがつくっているお米のことや、地域のこと、そして佐渡のことをお伝えしていきたいと思っています。よろしくお願いたします。

記念すべき第1号は「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」が出来るまでをご紹介します。

■ 冬期湛水(12月下旬～3月上旬)



冬の間も田んぼに水を張って、トキの餌となるドジョウやカエルなどがずっと暮らせる環境をつくっています。

田んぼに溝をつけて、雨水が溜まりやすいように工夫しています。

■ 種もみの温湯消毒(2月中旬～3月下旬)



長畝生産組合ではJA佐渡から種もみの温湯消毒を作業受託しており、全島分の種もみを約一ヶ月半かけて消毒します。

■ 育苗(4月上旬～5月上旬、田植えまで)



約20,000箱の苗を育てています。芽が出て苗が大きくなって田植えが出来る状態まで約40日かかります。その間、毎日水をやったり、ハウスの換気をしたり休む暇もありません。

■ 4月15日は集落の祭りです。郷土芸能・鬼太鼓が五穀豊穡・家内安全を願って門付けをして回ります。太鼓の音とともに春が一気に広がっていきます。



■ 田植え(5月上旬～中旬)



さあ、田植えの始まりです。朝は7時から夕方6時まで、いつの間にかみんなの顔は日に焼けて真っ黒になっています。

■ 6月13日は「生きもの調査の日」です。ドジョウやメダカ、アメリカザリガニなど沢山の生きものが確認されました。田んぼが躍動しています。





■ 草刈り(5月中旬～稲刈り前まで)



佐渡の百姓は畦草刈りをマメに行います。しっかりした畔を保つために除草剤は使いません。草を刈った後、田んぼにそよぐ涼風に草のにおいが乗って何とも癒される瞬間です。この気持ちよさはなかなか味わえませんよ。

■ 苗も順調に育った7月、緑の絨毯が広がっています。



■ とっ朱鷺だ！7月18日17:25 偶然うちの田んぼにいた朱鷺を見つけて追跡



夕日がジリジリと照りつける中、汗だくになりながら少しずつ接近して撮りました。

■ 8月上旬、稲穂が出て、白い花を咲かせます。サギの親子？も一休み・・・



出穂した稲穂に白く小さな花が咲いています。

■ そして収穫の秋 お天道様はご機嫌ななめ・・・



晴天の稲刈りはとっても気持ちがいいものです。昼休みに田んぼでビールでも飲めたら最高でしょうね。

実は稲が早くから倒伏して、しかも雨天が続いたおかげで、泥だらけになっての稲刈り作業が続きました。



今年からオリジナル米袋をつくりました。その名も「佐渡田米」。お米屋さんの店頭はこの袋があったら、長畝のお米だと思ってください。

今年は新年に環境保全型農業推進コンクールで全国表彰され、組合員一同気持ちも新たにお米づくりに取り組んだ1年でした。春には低温障害で苗がなかなか育たずに悩み、夏には記録的な酷暑のなか、汗まみれになって草を刈り、秋には雨で泥んこになった稲を刈りました。自然の気まぐれに翻弄されながらも何とかお米の収穫までこぎ着けてきました。

どうか私たちの1年間の努力を組んで、新米をお腹いっぱい召し上がってください。おかわりは自由です！